

支笏洞爺国立公園のすがた

火山活動の博物館

ニセコアンヌプリ

羊蹄山 独立峰として整った姿が印象的だ。山体や火口に侵食による変形が少ないのは、比較的若い火山だからである。羊蹄山の噴出物は東方に広く分布している、かつては盛んな活動をしていたと考えられているが、歴史時代になってからの噴火の記録はない。

羊蹄山

支笏湖と周辺の三つの山 支笏湖は面積 77.3km² で日本第 8 位の湖沼である。支笏カルデラは、約 4 万年前に起こった巨大な噴火により生まれた。噴火の際に大量の軽石や火山灰を降らせ、火砕流は札幌市や羊蹄山付近にも達している。湖畔からの眺望で印象的な三つの山、風不死岳・恵庭岳・樽前山はカルデラが生まれた後に活動を始めた。樽前山は 9,000 年前に生まれた山で、よく目立つ溶岩ドームは明治 42 年（1909）の噴火によってできたものだ。近年では昭和 53 年（1978）に小規模な噴火を起こしている。



洞爺湖 洞爺湖は、面積 70.7km²、ほぼ円形で、支笏湖に次いで日本第 9 位の湖である。約 11 万年前の巨大な噴火により生まれた直径 8~11km のカルデラ湖で、噴火のとき発生した火砕流は太平洋と日本海に流れ込み、周辺に広い台地を作った。湖の中央にある中島は、洞爺カルデラができたあと、約 5 万年前に始まった火山活動で生まれた。密集した 7 個の溶岩ドームからできている。南岸の有珠山は、さらにその後、約 2 万年前に活動が始まったものである。

中島

有珠山

昭和新山

洞爺湖

火山が作り出した自然

北海道の火山を、いまは活動を止めたものも含めて地図に落とすと、火山の多い地域が帯状に結ばれる。千島列島から東北日本につながっているこのような火山の帯は、太平洋プレートが海溝に沈み込み、深いところからマグマを上昇させることによって生まれる。

北海道は、千島弧と東北日本弧という二つの弓形の列島の接点に当たり、火山の帯が大きく折れ曲がっている

あたりに位置するのが、支笏洞爺国立公園である。この国立公園では、有珠山や樽前山がいまも活発に活動し、大地の容貌を変化させている。また、過去の火山活動により生まれた支笏湖、洞爺湖、倶多楽湖という三つのカルデラ湖や豊かな温泉は、それぞれ特徴のある景観を作り、この国立公園の風景をダイナミックに変化に富んだものとしている。



倶多楽湖と登別 もう一つのカルデラ湖、倶多楽湖は数万年前の火山活動で形づくられた。支笏・洞爺両湖より小さく、直径 2km ほどである。登別の地獄谷や大湯沼などは、約 1 万年前の日和山の噴火活動によって生まれたものである。